

# Twitterの利用目的と個人情報に関する一考察

草刈 三結 (22111113@tama.ac.jp), 丹羽 優介 (22111273@tama.ac.jp)  
成澤 知輝 (22111265tn@tama.ac.jp)

## 1. はじめに

子供でもネットに触れる機会の多い近年では、SNSに関するトラブルや被害が後を絶たない。SNSに関連したトラブルが起きる際、加害者側が明確な悪意を持って行った場合と、被害者側の他者に対する情報公開の危機感の欠如が原因の場合がある。今回は被害者側がどのような意識を持っているのかを調査する必要があると考えた。

そこで私たちは、Twitterに着目した。

Twitterの利用目的とそれに対する個人情報、被害への危機感の関係性や、どのような人が情報モラルが低いのかを調査することで被害者側の意識を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究方法

2022年10月に多摩大学において、心理学に関する講義終了後に、大学二年生以上の94名(男性75名、女性18名)に紙媒体のアンケートを一斉配布し解答してもらった。

アンケートは全26項目で主にリッカート尺度を用いて行った。分析は、単純集計、クロス集計、 $\chi$  二乗集計を用いて行った。

## 3. 結果と分析

### 3.1 個人情報を載せることに危険性があると思うか

利用目的と個人情報を載せることに危機感はあると思うかでクロス集計を行った。

結果は、どの利用目的でも過半数は「危険性あり」と回答。また、「危険性がある・ややある」と平均89%が回答した。また、人付き合いを目的としている人は、「危険性がない・あまりない」の平均が2%に対し、3倍の6%が回答しており、比較的に高い水準となった。

帰無仮説をTwitterの利用目的によって個人情報を載せることに対する危機感には有意的な差が出るとした場合、 $\chi$  二乗検定の結果有意確率は94%になり、帰無仮説は棄却されず、利用目的との関係は認められなかった。

### 3.2 Twitterで個人情報が流失し被害に遭う

## 可能性があると思うか

利用目的とTwitterで個人情報が流失し被害に遭う可能性があると思うかのクロス集計を行った。

結果は、「被害に遭うと思う・やや思う」と平均79%が回答した。また、キャンペーンが目的の人以外では1割が「思わない・あまり思わない」と回答し、キャンペーンが目的の人は1人も回答しなかった。また、人付き合いが目的の人は「思わない」の割合が平均の3倍おり、全項目と同様に高い水準となった。

帰無仮説をTwitterの利用目的によって個人情報が流失し被害に遭う可能性があると思うかに有意的な差が出るとした場合、 $\chi$  二乗検定の結果有意確率は83%になり、帰無仮説は棄却されず、利用目的との関係は認められなかった。

## 4. 結論

$\chi$  二乗検定の結果、どちらの項目でも帰無仮説が棄却されなかったため、Twitterの利用目的の違いは、ネット上でも個人情報の取り扱いに関する意識や情報モラルに関係性があるとは言えない結果となった。

また、両項目で過半数が危険性があると回答していたため、全体的に情報モラルが高い人が多い傾向にあった。

## 5. 今後の展望

今回  $\chi$  二乗検定において帰無仮説が棄却されなかった原因として、第一にアンケートの回答数の不足していたこと、第二に利用目的が情報収集と暇つぶしが大多数を占めており、キャンペーンと人付き合いの回答数が少なかったこと、第三に利用目的の項目が複数回答有りの質問形式だったことが挙げられる。今後は、第一にアンケートの件数を増やすこと、第二にアンケートの質問形式を検討する。